

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000903		
法人名	有限会社 Human-Hope		
事業所名	グループホーム自由の風 (すいせん)		
所在地	小樽市奥沢2丁目10番18号		
自己評価作成日	平成23年7月15日	評価結果市町村受理日	平成23年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000903&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年9月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員でホームの理念を構築して共に理解し、居間や事務所内、名札裏などに掲示する事で、日頃から意識しながら利用者の日常生活に於けるケアに反映させて居ります。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム近隣のスーパーや薬局での買い物や、地域のお祭り、小学校の運動会、町内会の忘新年会など様々な行事に参加し、年間を通じて日常的に交流をして居ります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に運営推進会議を開催する中で、認知症についての勉強会にて理解を深めて貰い、又、実際に介護の現場を見学して頂く事で支援方法を知って頂く機会を設けて居ります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の皆様や近隣店舗の方々にはホームの避難訓練やレク行事にも参加して頂いて居り、運営推進会議にて率直な感想や意見を頂戴して事業所全体で受け止め、ホームの全体会議の場で議題提起をしたり、職員一人一人のサービスを見直すなど、質の向上に繋げて居ります。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所として、又は職員から不明な点や疑問が生じた際には、その都度市町村に相談し助言を頂いて居り、市役所介護保険課内には当ホームのパンフレットを置いて頂く等、御協力頂いて居ります。又、毎月介護保険サービス利用状況の調査に協力し情報提供を行って居ります。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で身体拘束防止委員会を設け、定期的な勉強会や外部研修への積極的な参加等で全職員への周知と正しい理解を徹底して居り、身体拘束の無いケアを実践して居ります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームの全体会議や勉強会、外部研修などで高齢者虐待防止法について理解を深め、職員間でも日常の中で話し合いや声を掛け合いながら注意を払い、絶対的な防止に努めて居ります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居中の利用者に成年後見制度を必要とする人は居ないが、今後の経過に応じ必要性が生じた際には速やかに対応出来る様、日頃より権利擁護について把握し関係機関と連携を図って居ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を掛けて不明な点が無くなるまで分かり易く説明をし、理解と納得、安心を得られるまで質疑応答を繰り返して居ります。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関入口の面会簿記入場所に苦情相談用紙とボックスを設置して居り、又、利用者との日常会話や家族面会時のそれとない会話の中でも意見・要望があった時には詳細を伺い、速やかに対応出来る様取り組んで居ります。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場での意見だけではなく、普段の介護の現場で職員一人一人が気兼ね無く意見を出し合える環境を整えて居り、都度全員で話し合い、全員で決定した事を運営に繋げて居ります。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人一人と接しながら仕事に対する姿勢や力量を把握し、資格取得の機会や福利厚生も含め全員がやる気を持って働ける職場作りに努めて居ります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員それぞれに的確なアドバイスや指示を行い、各方面の研修やスキルアップの情報と機会を提供して職員全員の質の向上に努めて居ります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会が中心となって行っている相互訪問研修に積極的に参加して居り、市内様々なグループホームと行き来しながら新たな学びを得る事で、職員のサービスの質の向上に繋げて居ります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と密に接しながら思いや悩みを時間を掛けて傾聴して心の内を理解し、不安を解消してあげられる対話と温かみのある言葉掛けで安心して貰える様コミュニケーションを図って居ります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ずホームを実際に見学して貰い、意見や疑問がある場合には家族の立場に立って思いを受け止めて一緒に話し合い、事前に解決した上で安心して入居しその後も利用して頂ける様に取り組んで居ります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居以前の生活歴や情報を収集し、本人・家族からの要望を尊重した上で優先して必要とされる支援を考慮し、他のサービスの利用も必要に応じて対応して居ります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として利用者へ接して居り、多くの学びと教を頂戴しながら同じ時間や気持ちを共有し合う事で、信じ合える・頼り合える関係を築いて居ります。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には本人の日常の様子や健康状態を伝えて本人の現状を理解して頂いて居ります。又、楽しみや喜びを共有して更なる良い関係が築ける様、行事への参加を呼び掛けるなど、積極的に働き掛けて居ります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前からの馴染みの病院や理美容室への行き来、暮らしていた町や思い出の場所への訪問、旧知の友人知人とのコンタクトなど、様々な機会を提供し変わらぬ関係が保てる様に努めて居ります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	故郷の事や子供の頃の話など利用者同士が共通の話題で気持ちを分かち合える様な雰囲気作りを行い、利用者同士の繋がりに努めて居ります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅復帰や医療機関への入院などで退居した後も、その後の生活に於ける悩みや相談があれば遠慮無く連絡を下さる様、又、近くに來られた際にはいつでも気軽に立ち寄って頂く様に伝えて居り、支援に努めて居ります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の生活歴や希望を把握した上でホームでの暮らしに反映し、その人らしい暮らしの実現に取り組んで居ります。意思疎通が困難な場合は家族から情報収集し限りなく本人本位となる様に努めて居ります。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には自宅訪問して生活の様子を把握し、本人と家族からこれまでの暮らしや習慣、好みなどの情報収集を行い、それらを生かして生活が送れる様支援して居ります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の暮らし方を詳細に観察し、日常生活に於いて出来る事・出来ない事を見極め、出来ない事への支援と出来る事の継続維持に努めて居ります。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議などで職員同士で意見を出し合い、本人・家族の意見も取り入れた上で、本人にとってより良く暮らして行く為に必要な介護計画の作成に取り組んで居ります。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や食事・排泄状況などを個別ファイルに記入し、職員間で情報を共有する事で実践に活かして居り、必要時にはサービス担当者会議を経て介護計画の再検討にも繋げて居ります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を尊重しつつ、状況に応じた病院送迎や個別ケア、その他必要とされるサービスを臨機応変に行って居り、速やかに対応して居ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人のニーズを考慮し、他サービス事業所や関係機関、地域協力者など様々な方面との連携を図り、充実した暮らしが出来る様に支援して居ります。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医の確認と今後の意向を伺い、本人と家族が希望する医療機関との連携を図り、スムーズで適切な医療が受けられる様に支援して居ります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師が週2回訪問して居り、都度職員側から利用者一人一人の情報を提供しながら助言や指示を受け、適切な受診と看護を受けられる様に連携を図って居ります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期往診時には担当医と看護師に利用者の健康状態を報告して居り、入院となった場合でも情報提供を積極的に行い速やかな入院治療が出来る様協力して居ります。又、早期退院に向けて病院側や家族との話し合いの機会も設けて居ります。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の病状等を考慮した上で早い段階から本人と家族の意思を尊重して話し合い、主治医や看護師と密な連携を図りながら職員を始め事業所全体で協力し、統一した方針でケアに取り組む事が出来る様に对应して居ります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームの全体会議や勉強会の中で急変時や事故発生時の初期対応について学び、又、看護師からケースに応じての指導や助言を受け、適切で速やかな対応が取れる様に取り組んで居ります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回消防署の協力の下、昼夜の時間帯・出火場所など具体的な想定で避難訓練を実施して居り、事前に地域住民の参加も呼び掛け、一緒に訓練して頂いて居ります。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、これまでの生活歴を把握した上で個々に誇りとしている部分には理解と敬意を払って接し、又、個人の生活に配慮した環境を提供して居ります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者が話し易い雰囲気作りに努め、自然な会話の中から意思や希望を引き出して汲み取り、自己決定出来る様利用者の立場に立ったサービスを実施して居ります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いを尊重し、声を掛けて一緒に考え、利用者の立場に立ったその人らしい毎日の暮らし作りに努めて居ります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からの行きつけの理美容院がある利用者には通えるように支援して居り、入浴での着替え時や外出行事などでは利用者本人に服を選んで頂き、希望に沿った身だしなみを実施して居ります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った献立や旬の食材を盛り込み、馴染みや季節感のある食事の提供に努めて居ります。又、野菜の皮むきやお米研ぎ、時には山ぶきの下ごしらえなど、調理の手伝いや食器洗いといった片付けも昔話を楽しみながら一緒に行って居ります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の栄養バランスに関しては委託契約している食料業者の栄養士が管理して居り、食事量・水分量は摂取の都度記録に残し、状態把握をして居ります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けと必要に応じて介助を行い、口腔内の清潔保持に努めて居ります。又、毎朝の嚥下体操にて唾液分泌の促進など機能維持にも取り組んで居ります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人のトイレの行き来、言動や表情も含めて排泄パターンを観察・把握し、個々に応じたトイレ誘導と介助を実施して居ります。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や歩行運動、掃除のお手伝い等で出来るだけ身体を動かして貰い、便秘予防に努めて居ります。必要に応じて整腸作用のある飲食物も提供して居ります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の時間帯や曜日を聞いて調整し、利用者一人一人に合った入浴援助を実施して居ります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の体調と生活習慣に合わせて休息時間を確保して居り、又、夜間良眠が出来る様、出来る範囲内で日中の活動にも参加して頂ける様に支援して居ります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が利用者それぞれの薬の説明書で効果や副作用、用量などに目を通して理解して居り、手渡しでの与薬、名前・日にち等声を出しての確認、飲み込みの確認を行い、その後の状態観察にも努めて居ります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今迄の生活歴や習慣に合わせた活動や役割を提供し、楽しみと潤いのある暮らしが出来る様に支援して居ります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近隣店舗への買い物へは希望に応じてその都度付き添って出掛けて居ります。本人から家族へ、又は家族から本人への外出希望があれば職員が間に入って速やかな伝達を行い、一緒に外出出来る為の支援を実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や状態に応じ、家族より少額のお小遣いを本人に所持して貰って居り、支払は出来る限り自身で出来る様に職員がサポートして居ります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間には配慮した上で、自由に連絡のやり取りが出来る様に支援して居り、コードレス電話機にて事務所内や居室で会話を楽しんで貰える様、プライバシーにも配慮して居ります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度計・湿度計をこまめに確認し、換気・採光・エアコンでの室温調節に努めて居ります。又、季節毎に居間の装飾を取り替え、四季を感じられる空間作りに取り組んで居ります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で会話出来る様にソファや椅子を多く設置して居ります。又、一人でゆっくりと過ごしたい方の為にも廊下突き当たりにソファを置き、空間を確保して居ります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や身の回りの物を持参して頂き、室内の配置も本人の意見を聞きながら、より安心して過ごして頂ける様に配慮して居ります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、手洗場とその周りのハンドソープ・ペーパータオルなど、至る所に分かり易く表示を貼り出し、又、日にちや時間がいつでも確認出来る様、カレンダーや時計を目立つ場所に複数設置して居ります。		